

秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。
<http://www.city.akita.akita.jp/>

市長のほっぺ コラム

市長 佐竹敬久



商売繁盛、名古屋での体験

新潟中越地震では、本市でも直ちに各方面の応援隊を派遣したほか、職員のボランティア派遣や義援金募集、加えて市としても三百万円の見舞金を贈らせていただきました。

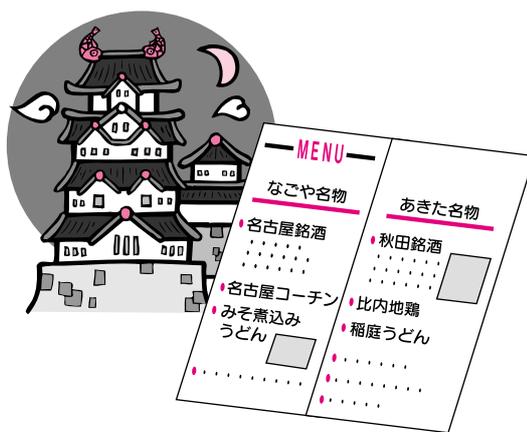
犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様へ心からお見舞いを申しあげます。

さて、職務柄、さまざまな土地で開催される会議などに出席する機会が多く、合間を縫っては、何でも見て聞いて、ということになります。

先般、環境政策の全国会議で名古屋屋を訪れた際に、当然に夜は名古屋名物の「味噌煮込みうどん」で一杯ということ、一番の老舗という店のれんをくぐったみたいです。

秋田の酒飲みの典型的の私としては、まずは「のど通し」の生ビールの後に、名産の名古屋コーチンの鳥料理を肴に清酒を燗と冷やで？合ほど嗜み、ほろ酔い機嫌になつてから、その店お奨めの特製味噌煮込みうどんに半ライスという順に箸を進めました。

ところで、その店のメニューを開



いて、「あれっ！」と思ったことがあります。メニューの開けて左側には上段から地場産と全国銘柄の数種の清酒、名古屋コーチン料理、そして数種類の味噌煮込みうどんと並び、なんとその右側のページには秋田銘酒、比内地鶏料理、稲庭うどんが、それぞれ左側のページと同種同士が対をなすように同格に記されているではありませんか。

名古屋の銘酒というのは聞いたことはありませんが、なるほど名産の

鶏とうどんでは秋田と名古屋は共通項があり、この老舗ではこれに名古屋の地酒も加えて、秋田を食のライバルと位置づけているのです。

我々秋田県人からしますと、一般的にライバルの産品を同列・同格に扱うという発想はまず出てきません。

店の人であれこれ聞いてみますと、秋田の酒は美味しく、それに名古屋の人でも常に名古屋コーチンと、どちらかといえば固麺でこつてりの味噌煮込みうどんでは飽きるし、そのような時には名古屋名産と対等に勝負できる秋田の比内地鶏とあっさりして柔らかめの稲庭うどん、ということになるという説明を受け、なるほど納得したみたいです。

とりたてて何という話ではありませんが、どこかに名古屋商法の妙を感じさせられた体験でした。

帰り際に、秋田の産品を扱っていただいていることに礼を言い名刺を差し出してきました。

それから三日後、その老舗の社長さんから丁寧な礼状が届きました。

・・・納得、さすが名古屋商法



成功めざしてガンバルぞー！



打ち合わせに熱が入ります。予定の時間を過ぎることもしばしば...



郷土で協働



昨年のフォーラムの様子

しあわせ実感男女フォーラム
実行委員会

みんなが楽しめる 有意義なイベントに

明日十三日の土曜日、文化会館で開かれる「しあわせ実感男女フォーラム」。市が主催するこの催しは、その企画段階から、実行委員の市民のみなさんの手で準備が進められてきました。誰もが生きやすい社会の実現のため、ここにも市民パワーは欠かせません。

手づくりフォーラム

「しあわせ実感男女フォーラム」は、「男女共生」市民共生」の社会を考えるきっかけにしておうと、今年で十四回目となる催しです。今年は、俳優の東ちづるさんの講演、映画鑑賞、さまざまなワークショップなどで楽しんでいただくことにしています（詳しくは広報あきた十月二十二日号）。

このフォーラムの内容は、公募で集まった市民のみなさんが中心となって企画したものです。

実行委員は男性三人、女性四人の計七人。年齢は二十代〜五十代と幅広く、職業も学生や主婦、会社勤めの人などさまざまです。

熱をおびた議論

フォーラムの準備は六月から開始。月に一〜二回集まり、講師や映画の選定、テーマの決定、ポスターの作成などに取り組みました。年齢も職業も違う委員が、さまざまな立場や目線で意見を述べ合い、予定の時間があつという間に過ぎるほど熱を帯びた議論がフ

ォーラム直前まで続きました。

今年のテーマは「ありのままに自分らしく、あなたらしく」。実行委員長の折原和子さんは、「市から言われるままではなく、私たち実行委員が参加者の気持ちになって、誰もが楽しめるフォーラムにしよう」と頑張っています。このフォーラムが、男女共生について考えるきっかけになってくれたらうれしいですね」と話してくれました。

ともに生きるために

「男女共生社会」とは、性別や年齢、障害、国籍にかかわらず、すべての人が尊重され、お互いに支え合い、ともに生きる社会のこと。つまりは「市民共生」ということであり、すべての人たちの視野に入れた形で事業を進めています。

秋田市では、この「男女共生」市民共生」を実現していくため、市民と協働でこういったフォーラムを開いているほか、啓発資料を発行したり、出張講座を開催したりしています。

まずは、私たち一人ひとりが、家庭や学校、職場、地域社会などで、「男だから、女だから、こうしなければいけない」という考えに縛られないこと、そして、お互いを認め、相手を思いやるのが第一歩です。

十三日の土曜日は、文化会館のフォーラムに行ってみませんか？ 新しい発見が何かあるかも...